

## 【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀市立思斎小学校		達成度(評価)																																																																																												
				A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である																																																																																												
<b>1 前年度</b>	<p>○「学び」の成果については、小中連携学力向上地域指定事業一年目として、各教科の授業における指導力向上をめざし、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。小3年国語、小6年体育の授業実践が提案された。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的な方策について見直し、実践に取り組む。</p> <p>○「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。今年度は年間を見通した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心とした学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事案への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にして解消に向けて取り組んできた。年間16件の認知報告を行った。Q-uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。</p> <p>○「誇り」の成果については、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、地域人材を活用した授業実践や体験活動に十分取り組むことができなかつた。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加など、地域との連携の機会も自粛・中止により減少した。小4年で毎年行っている「思斎学模擬面接」については実施できた。今年度は、地域人材リストを更新し、コロナ禍においても可能な範囲で地域とのコラボレーションにて体制づくりに取り組む。</p> <p>○学校運営に係る業務改善については、自発的勤務時間の上限45時間を平均では下回ったが、個別には超過する職員が毎月4~5名程度いる。今年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p>																																																																																															
<b>2 学校教育目標</b>	<b>『見賢思斎』の精神で たくましく未来を切り拓く児童の育成</b> <b>～小中一貫教育の推進を通して～</b>																																																																																															
<b>3 本年度の重点目標</b>	① 目標や夢の実現に向けて努力する児童 ② 学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童 ③ 自他のよさを理解し、よりよい人間関係を築く児童 ④ 心身の発達について理解し、健康な心身をつくろうとする児童 ⑤ 師士に誇りをもち、師士の文化や伝統を大切にする児童																																																																																															
<b>4 重点取組内容・成果指標</b>				<b>中間評価</b>	<b>5 最終評価</b>																																																																																											
<b>(1)共通評価項目</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">重点取組</th> <th colspan="2">具体的な取組</th> <th colspan="2">中間評価</th> </tr> <tr> <th>評価項目</th> <th>取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> <th>具体的な取組</th> <th>進捗度 (評価)</th> <th>進捗状況と見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">●学力の向上</td> <td>●全職員による共通理解と共通実践</td> <td>●学力向上に対する取り組みを示したマップの成果指標を達成した教師80%以上にする。 ●「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業をしていると回答した教師員を80%以上にする。</td> <td>・マイプランを定期的に見直し、取組状況を把握できるように、校内研修などにより取組の促進を図る。 ・共通実践を以下に示す。 ①「書く力を強化するために、日記や条件付き作文などを日常的に取り入れる。②自分の考え方や思いを文章で書く活動を意図的に仕組む。③「授業づくりのステップ1・2・3」のパンフレットを配布し、いつでも使えるようにする。</td> <td>A</td> <td>・学力向上に対する取り組みのマイプランを全員立て、達成に向けた取組が心がけている。 ・2年生では週末に「作文ノート」に取り組み、3~6年生は毎日日記を書かせており、少しずつ書き量が増えてきた。また、「書く」ことに抵抗をもつ児童が減ってきた。 ・90%の教師員が「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業作りに取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>○「楽しい授業づくり」の推進</td> <td>○「学校の授業は楽しい」と回答する児童を80%以上にする。</td> <td>・「楽しい授業」づくりをめざし、校内研究や日々の授業において学習課題の工夫をしたり、授業力向上に向けての手立てを図ったりする。 ・教師間の授業参観をいつでもできるようにする。</td> <td>A</td> <td>・「学校の授業は楽しいか。」に対して、92%の児童が肯定的な回答をした。 ・授業においては、低学年ではなるべく具体物を活用し、感覚を経験させるようにした。算数では学びタイムを設け、学び合いで意識して授業を行った。 ・「授業参観見どころボード」を職員会議で掲示し、教師間でおすすめの授業を参観できるようにした。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">●心の教育</td> <td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td> <td>○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。</td> <td>・人権集会やお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心の育成を図り、学校全体に持続的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見聞き交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の方と連携したO-O体験の実施を促す。</td> <td>B</td> <td>・全校朝会で「いいじめゼロ宣言」を行い、いじめについての認識を高めている。 ・平和集会(人権集会)を行い、戦争の残酷さや二度と繰り返してはいけないことを学び、自分や家族、友達の命の尊さについて考える機会をもつた。 ・2学期以降の授業参観で行うふれあい道徳の準備を進めている。</td> </tr> <tr> <td>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</td> <td>○いじめの覚知、認知に係る組織的対応ができると回答した教員を90%以上にする。</td> <td>・日常的な担任の見取りり・情報収集によりいじめの早期発見早期対応を行う。 ・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、全職員による対応を協議することで、多角的な生徒指導・教育相談を講じる。 ・担任だけでなく、学生主任・管理職・スクールカウンセラーとの連携を取りながら、児童の指導・保護者に対応する。 ・5月~2月にアンケート「月の心」を実施し、その後6月、12月にいじめアンケートを実施することにより、潜在的ないじめに対応する。</td> <td>A</td> <td>・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、学年グループ毎に発達段階に即した対応を協議した。その上で、共通理解を図り、実効性の高い対応ができる。 ・「月の心」や6月のアンケートとともに、個別に聞き取りを行うことで、いじめの早期発見早期対応を行うことができた。 ・担任・学生主任・管理職・スクールカウンセラーが連携しながら、児童の指導・保護者に対応にあたった。 ・8月に教育相談研修会を行い、10月に教育相談週間を開催する。</td> </tr> <tr> <td>○自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進</td> <td>○「勉強は夢や目標の実現に役立つと思ふ」児童を70%以上にする。</td> <td>・O-U-NRTの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に出番・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。</td> <td>A</td> <td>・課題者の分析を実施し、各学年の分析結果を踏まえた2年期以降の対策を講じることができた。 ・委員会活動を中心として、学校に置ける各種課題を児童の視点から見出し、課題解決を児童自身が話し合いで、対策を講じた。教師は、年間行事等のカリキュラムを意識して指導した。 ・学期の始めと終わりにキャリアパスポートを記入し、児童の足跡を残し、児童自身の課題を意識せることができる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●健康・体づくり</td> <td>●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</td> <td>○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上にする。</td> <td>・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。</td> <td>B</td> <td>・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。</td> </tr> <tr> <td>●業務効率化の推進と時間外勤務</td> <td>●教育委員会規則に掲げる時間外在学時間の上限を遵守する。</td> <td>・職員会議の1時間以内実施。(2日前資料配布・事前部会開催) ・データの共有化と整理整頓の徹底を図る。 ・定期退勤日を設ける。</td> <td>B</td> <td>・会議の短縮や通知表の2期制等、業務の効率化は進んでいる。時間外勤務時間については連絡会を通じて周知しているが、十分ではない。(4~7月の月平均45時間以上が16人で55%・定期退勤日の徹底と日常業務減に係る見直しについて取組を進めている。</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> <b>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">重点取組</th> <th colspan="2">具体的な取組</th> <th colspan="2">中間評価</th> </tr> <tr> <th>評価項目</th> <th>重点取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> <th>具体的な取組</th> <th>進捗度 (評価)</th> <th>進捗状況と見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実</td> <td>○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成</td> <td>○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。</td> <td>・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。</td> <td>B</td> <td>・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。</td> </tr> <tr> <td>○教員の専門性と意識の向上</td> <td>○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。</td> <td>・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。</td> <td>A</td> <td>・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> <b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b> </td> </tr> <tr> <td><b>5 総合評価・次年度への展望</b></td> <td colspan="5">           全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。            校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。            今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。            カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。         </td> </tr> </tbody> </table> </td></tr></tbody></table>						重点取組		具体的な取組		中間評価		評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上に対する取り組みを示したマップの成果指標を達成した教師80%以上にする。 ●「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業をしていると回答した教師員を80%以上にする。	・マイプランを定期的に見直し、取組状況を把握できるように、校内研修などにより取組の促進を図る。 ・共通実践を以下に示す。 ①「書く力を強化するために、日記や条件付き作文などを日常的に取り入れる。②自分の考え方や思いを文章で書く活動を意図的に仕組む。③「授業づくりのステップ1・2・3」のパンフレットを配布し、いつでも使えるようにする。	A	・学力向上に対する取り組みのマイプランを全員立て、達成に向けた取組が心がけている。 ・2年生では週末に「作文ノート」に取り組み、3~6年生は毎日日記を書かせており、少しずつ書き量が増えてきた。また、「書く」ことに抵抗をもつ児童が減ってきた。 ・90%の教師員が「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業作りに取り組んでいる。	○「楽しい授業づくり」の推進	○「学校の授業は楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	・「楽しい授業」づくりをめざし、校内研究や日々の授業において学習課題の工夫をしたり、授業力向上に向けての手立てを図ったりする。 ・教師間の授業参観をいつでもできるようにする。	A	・「学校の授業は楽しいか。」に対して、92%の児童が肯定的な回答をした。 ・授業においては、低学年ではなるべく具体物を活用し、感覚を経験させるようにした。算数では学びタイムを設け、学び合いで意識して授業を行った。 ・「授業参観見どころボード」を職員会議で掲示し、教師間でおすすめの授業を参観できるようにした。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。	・人権集会やお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心の育成を図り、学校全体に持続的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見聞き交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の方と連携したO-O体験の実施を促す。	B	・全校朝会で「いいじめゼロ宣言」を行い、いじめについての認識を高めている。 ・平和集会(人権集会)を行い、戦争の残酷さや二度と繰り返してはいけないことを学び、自分や家族、友達の命の尊さについて考える機会をもつた。 ・2学期以降の授業参観で行うふれあい道徳の準備を進めている。	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの覚知、認知に係る組織的対応ができると回答した教員を90%以上にする。	・日常的な担任の見取りり・情報収集によりいじめの早期発見早期対応を行う。 ・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、全職員による対応を協議することで、多角的な生徒指導・教育相談を講じる。 ・担任だけでなく、学生主任・管理職・スクールカウンセラーとの連携を取りながら、児童の指導・保護者に対応する。 ・5月~2月にアンケート「月の心」を実施し、その後6月、12月にいじめアンケートを実施することにより、潜在的ないじめに対応する。	A	・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、学年グループ毎に発達段階に即した対応を協議した。その上で、共通理解を図り、実効性の高い対応ができる。 ・「月の心」や6月のアンケートとともに、個別に聞き取りを行うことで、いじめの早期発見早期対応を行うことができた。 ・担任・学生主任・管理職・スクールカウンセラーが連携しながら、児童の指導・保護者に対応にあたった。 ・8月に教育相談研修会を行い、10月に教育相談週間を開催する。	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進	○「勉強は夢や目標の実現に役立つと思ふ」児童を70%以上にする。	・O-U-NRTの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に出番・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。	A	・課題者の分析を実施し、各学年の分析結果を踏まえた2年期以降の対策を講じることができた。 ・委員会活動を中心として、学校に置ける各種課題を児童の視点から見出し、課題解決を児童自身が話し合いで、対策を講じた。教師は、年間行事等のカリキュラムを意識して指導した。 ・学期の始めと終わりにキャリアパスポートを記入し、児童の足跡を残し、児童自身の課題を意識せることができる。	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上にする。	・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。	●業務効率化の推進と時間外勤務	●教育委員会規則に掲げる時間外在学時間の上限を遵守する。	・職員会議の1時間以内実施。(2日前資料配布・事前部会開催) ・データの共有化と整理整頓の徹底を図る。 ・定期退勤日を設ける。	B	・会議の短縮や通知表の2期制等、業務の効率化は進んでいる。時間外勤務時間については連絡会を通じて周知しているが、十分ではない。(4~7月の月平均45時間以上が16人で55%・定期退勤日の徹底と日常業務減に係る見直しについて取組を進めている。	<b>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">重点取組</th> <th colspan="2">具体的な取組</th> <th colspan="2">中間評価</th> </tr> <tr> <th>評価項目</th> <th>重点取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> <th>具体的な取組</th> <th>進捗度 (評価)</th> <th>進捗状況と見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実</td> <td>○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成</td> <td>○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。</td> <td>・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。</td> <td>B</td> <td>・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。</td> </tr> <tr> <td>○教員の専門性と意識の向上</td> <td>○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。</td> <td>・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。</td> <td>A</td> <td>・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> <b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b> </td> </tr> <tr> <td><b>5 総合評価・次年度への展望</b></td> <td colspan="5">           全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。            校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。            今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。            カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。         </td> </tr> </tbody> </table>						重点取組		具体的な取組		中間評価		評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実	○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。	B	・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。	・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。	A	・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。	<b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b>						<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。 校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。 今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。 カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。				
重点取組		具体的な取組		中間評価																																																																																												
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し																																																																																											
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上に対する取り組みを示したマップの成果指標を達成した教師80%以上にする。 ●「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業をしていると回答した教師員を80%以上にする。	・マイプランを定期的に見直し、取組状況を把握できるように、校内研修などにより取組の促進を図る。 ・共通実践を以下に示す。 ①「書く力を強化するために、日記や条件付き作文などを日常的に取り入れる。②自分の考え方や思いを文章で書く活動を意図的に仕組む。③「授業づくりのステップ1・2・3」のパンフレットを配布し、いつでも使えるようにする。	A	・学力向上に対する取り組みのマイプランを全員立て、達成に向けた取組が心がけている。 ・2年生では週末に「作文ノート」に取り組み、3~6年生は毎日日記を書かせており、少しずつ書き量が増えてきた。また、「書く」ことに抵抗をもつ児童が減ってきた。 ・90%の教師員が「授業づくりのステップ1・2・3」を意識した授業作りに取り組んでいる。																																																																																											
	○「楽しい授業づくり」の推進	○「学校の授業は楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	・「楽しい授業」づくりをめざし、校内研究や日々の授業において学習課題の工夫をしたり、授業力向上に向けての手立てを図ったりする。 ・教師間の授業参観をいつでもできるようにする。	A	・「学校の授業は楽しいか。」に対して、92%の児童が肯定的な回答をした。 ・授業においては、低学年ではなるべく具体物を活用し、感覚を経験させるようにした。算数では学びタイムを設け、学び合いで意識して授業を行った。 ・「授業参観見どころボード」を職員会議で掲示し、教師間でおすすめの授業を参観できるようにした。																																																																																											
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。	・人権集会やお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心の育成を図り、学校全体に持続的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見聞き交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の方と連携したO-O体験の実施を促す。	B	・全校朝会で「いいじめゼロ宣言」を行い、いじめについての認識を高めている。 ・平和集会(人権集会)を行い、戦争の残酷さや二度と繰り返してはいけないことを学び、自分や家族、友達の命の尊さについて考える機会をもつた。 ・2学期以降の授業参観で行うふれあい道徳の準備を進めている。																																																																																											
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの覚知、認知に係る組織的対応ができると回答した教員を90%以上にする。	・日常的な担任の見取りり・情報収集によりいじめの早期発見早期対応を行う。 ・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、全職員による対応を協議することで、多角的な生徒指導・教育相談を講じる。 ・担任だけでなく、学生主任・管理職・スクールカウンセラーとの連携を取りながら、児童の指導・保護者に対応する。 ・5月~2月にアンケート「月の心」を実施し、その後6月、12月にいじめアンケートを実施することにより、潜在的ないじめに対応する。	A	・生徒指導・児童支援協議会を毎月実施し、学年グループ毎に発達段階に即した対応を協議した。その上で、共通理解を図り、実効性の高い対応ができる。 ・「月の心」や6月のアンケートとともに、個別に聞き取りを行うことで、いじめの早期発見早期対応を行うことができた。 ・担任・学生主任・管理職・スクールカウンセラーが連携しながら、児童の指導・保護者に対応にあたった。 ・8月に教育相談研修会を行い、10月に教育相談週間を開催する。																																																																																											
	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進	○「勉強は夢や目標の実現に役立つと思ふ」児童を70%以上にする。	・O-U-NRTの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に出番・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。	A	・課題者の分析を実施し、各学年の分析結果を踏まえた2年期以降の対策を講じることができた。 ・委員会活動を中心として、学校に置ける各種課題を児童の視点から見出し、課題解決を児童自身が話し合いで、対策を講じた。教師は、年間行事等のカリキュラムを意識して指導した。 ・学期の始めと終わりにキャリアパスポートを記入し、児童の足跡を残し、児童自身の課題を意識せることができる。																																																																																											
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上にする。	・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」アンケートを毎月実施した。毎朝朝ごはんを食べて登校する児童は、85%であった。アンケートの結果と朝ごはんの大切さについては、2学期の給食だよりで保護者へ伝えられる予定である。給食実立委員会で給食献立作成の方針や子どもたちの大切な適当な食生活について保護者へ伝えた。																																																																																											
	●業務効率化の推進と時間外勤務	●教育委員会規則に掲げる時間外在学時間の上限を遵守する。	・職員会議の1時間以内実施。(2日前資料配布・事前部会開催) ・データの共有化と整理整頓の徹底を図る。 ・定期退勤日を設ける。	B	・会議の短縮や通知表の2期制等、業務の効率化は進んでいる。時間外勤務時間については連絡会を通じて周知しているが、十分ではない。(4~7月の月平均45時間以上が16人で55%・定期退勤日の徹底と日常業務減に係る見直しについて取組を進めている。																																																																																											
<b>(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">重点取組</th> <th colspan="2">具体的な取組</th> <th colspan="2">中間評価</th> </tr> <tr> <th>評価項目</th> <th>重点取組内容</th> <th>成果指標 (数値目標)</th> <th>具体的な取組</th> <th>進捗度 (評価)</th> <th>進捗状況と見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実</td> <td>○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成</td> <td>○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。</td> <td>・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。</td> <td>B</td> <td>・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。</td> </tr> <tr> <td>○教員の専門性と意識の向上</td> <td>○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。</td> <td>・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。</td> <td>A</td> <td>・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="6"> <b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b> </td> </tr> <tr> <td><b>5 総合評価・次年度への展望</b></td> <td colspan="5">           全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。            校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。            今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。            カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。         </td> </tr> </tbody> </table>						重点取組		具体的な取組		中間評価		評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実	○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。	B	・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。	・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。	A	・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。	<b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b>						<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。 校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。 今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。 カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。																																																												
重点取組		具体的な取組		中間評価																																																																																												
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的な取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し																																																																																											
○郷土学習「思斎学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実	○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間、その他体験活動等で積極的に地域の施設や人材を活用した授業を実施する。 ・委員会活動や児童会・生徒会活動を中心に、学校の課題を解決するために小中合同でできる活動を考え、実行する。 ・10月の清掃活動として、小中合同ボランティアを計画し、実施する。	B	・2年生・生活科「ドキドキわくわく町たんけん」、4年生・総合「久保田博士になろう」、5年生・総合「お米博士になろう」では、地域の特性を生かした体験活動を行った。児童は、地域の発展の歴史や、地域の産業を支える人々の努力について学ぶことができた。 ・合同ボランティアについては、小中学校それぞれの委員会で役割分担し、計画を立てている。																																																																																											
	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができると回答した教員を80%以上にする。	・夏季休業中に講師を招聘して小中合同研修会を行ったり、特別支援学級の授業参観及び授業研究会を行ったりすることで、職員全体の意識を高める。 ・配慮を要する児童の個別の指導計画は100%作成している。また、必要に応じて保護者との話し合いの際に、コラボネットワークと一緒に話入り、医療機関や関係機関と連携を図っている。	A	・8月に小中合同研修会を行い、特別支援教育に関する理解をはかる。また、10月に特別支援学級の公開授業を行い、さらに職員全体の意識を深めている。 ・個別の指導計画を必要に応じて見直したり、授業の必要な配置や対応について、適宜教育支援会議を開いて関係職員と話し合いを行ったりすることでよりよい支援に生かすことができた。																																																																																											
<b>●…県共通 ○…学校独自 ◉…志を高める教育</b>																																																																																																
<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。これは、コロナ禍の中、計画を見直しながら職員で共通理解のもと工夫した教育活動に取り組んだ成果だと考える。 校内研究を中心に全職員で共通理解・共通実践を意識しながら授業改善することができた。小中連携学力向上地域指定事業2年目として、「問い合わせ」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深め、授業公開を行った。児童の学びの質を高めるような授業づくりを継続していく。 今年度は、様々な場面で地域との交流や小中合同の交流が制限された。次年度は、リモートや少人数など、形態を工夫しながら地域連携や小中連携を進め、社会に開かれた教育活動や心の教育を充実させていく。 カリキュラムマネージメント、業務の効率化を進め、職員の時間外勤務時間を短縮するよう努める。週末の定期退勤の徹底を図る。																																																																																															